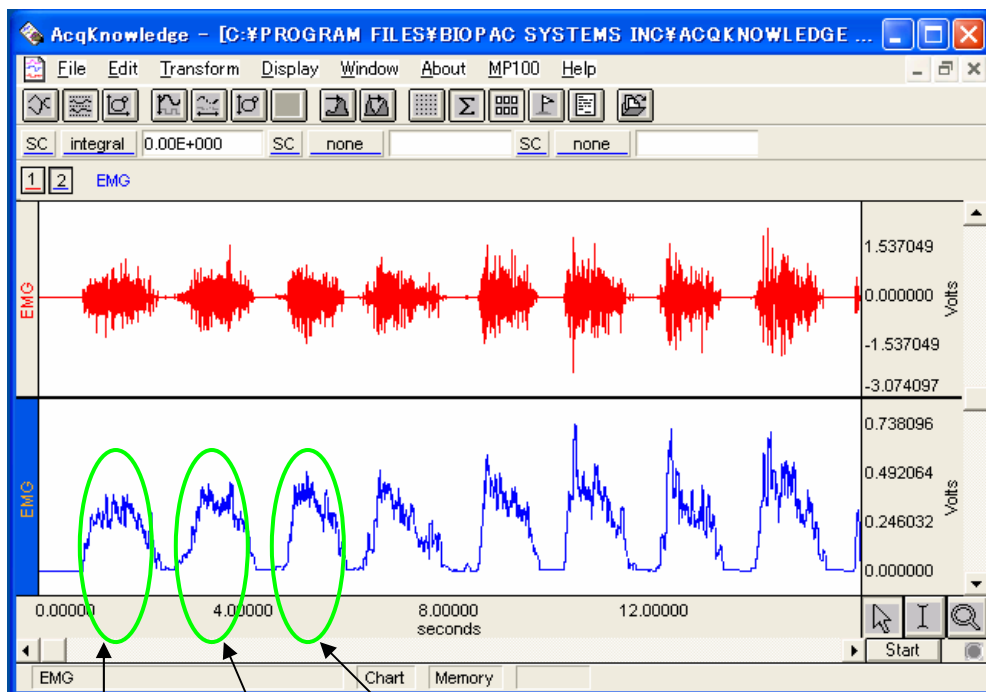


AcqKnowledge を用いた筋活動量の解析例

計測した波形の筋電図群を以下の図のように定義し、一般的な解析例を AcqKnowledge の操作方法を含めご説明いたします。


注意点：

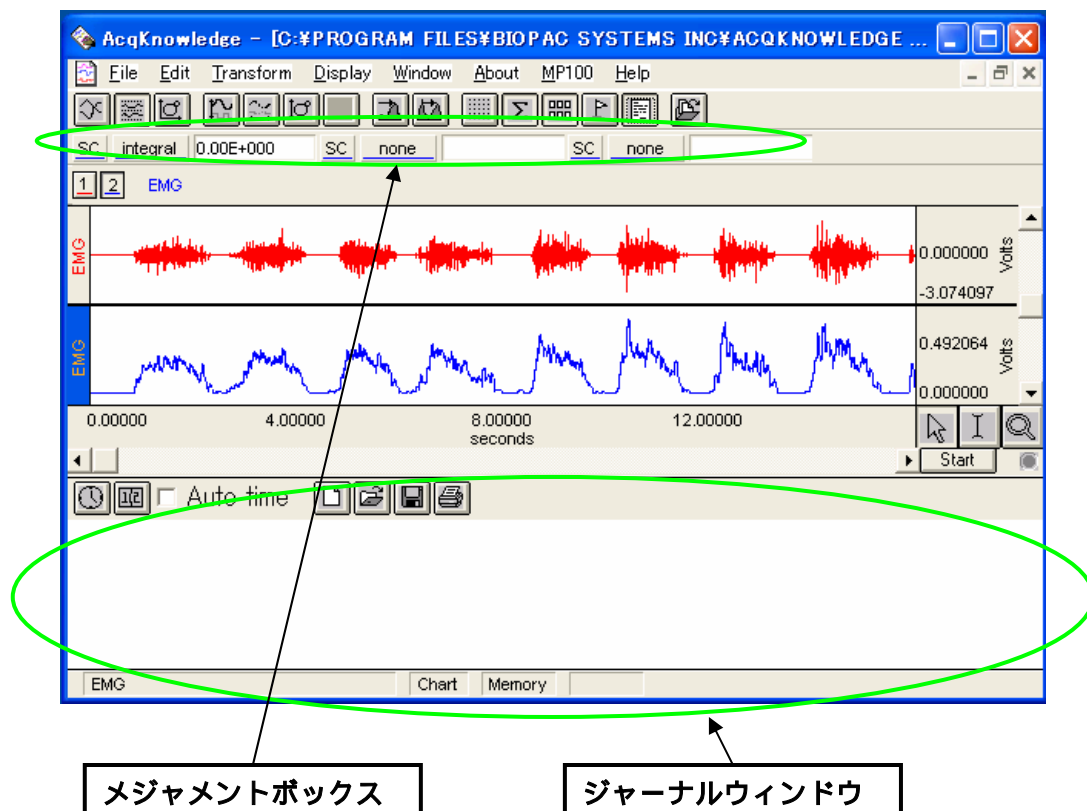
以下の解析手法は時系列での相対評価のみ可能です。つまり、この値は絶対値として解析に扱えるわけではございませんので、他の被験者や他の実験データとは比較することはできません。つまり時系列に増えたのか減ったのかを判断していただくこととなります。



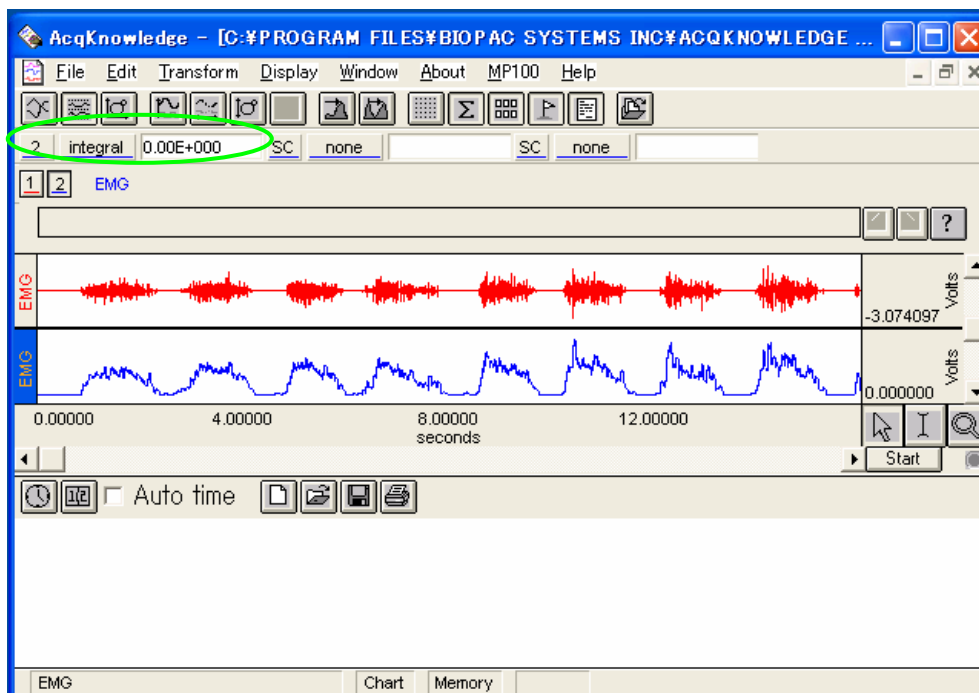
第1群 第2群 第3群

1、上記の図のように各筋電図群を定義する。


- 2、メジャメントボックス及びジャーナルウィンドウを表示させる。表示させる方法は、メジャメントボックスはアイコンの Σ マーク、ジャーナルウィンドウは  マークをクリックする。もう一度アイコンをクリックすると非表示になります。



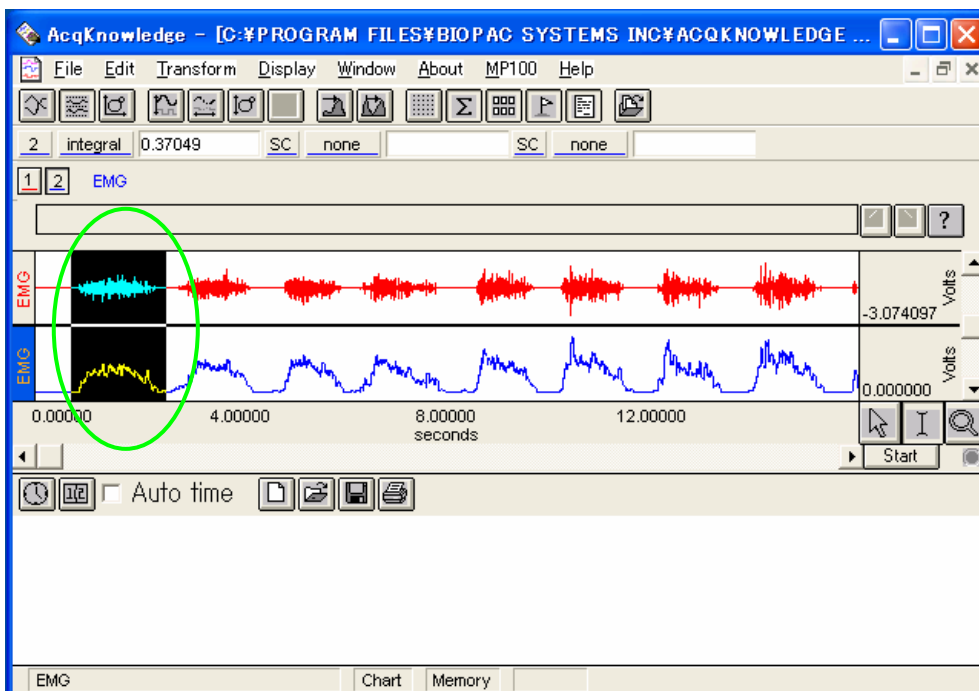
- 3、以下の図のように、メジャメントボックスを設定してください。左から積分筋電図のチャンネル番号（図では「2」）、解析機能「Integral」と設定する。複数メジャメントボックスが表示されると思いますので、図のように使用しないメジャメントボックスは機能を「none」と設定してください。



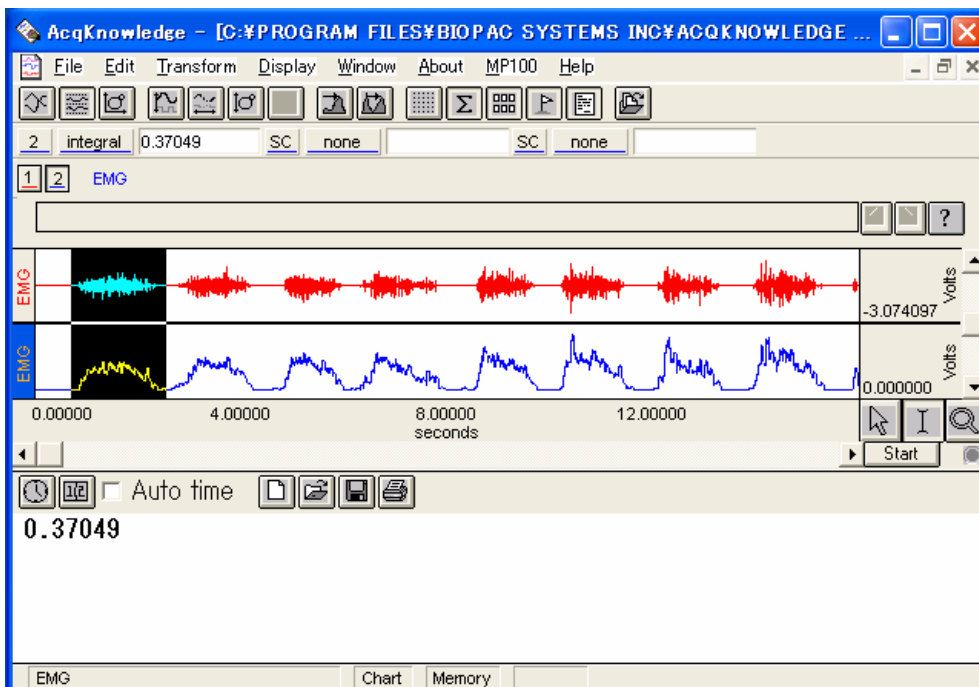
注：メジャメントボックスは、選択されたチャンネルの、選択された範囲においての平均値、最大値、最小値、面積等を計算させる機能です。各機能の詳細はマニュアルをご覧ください。

- 4、カーソルを  に変更する（波形の右下より）。

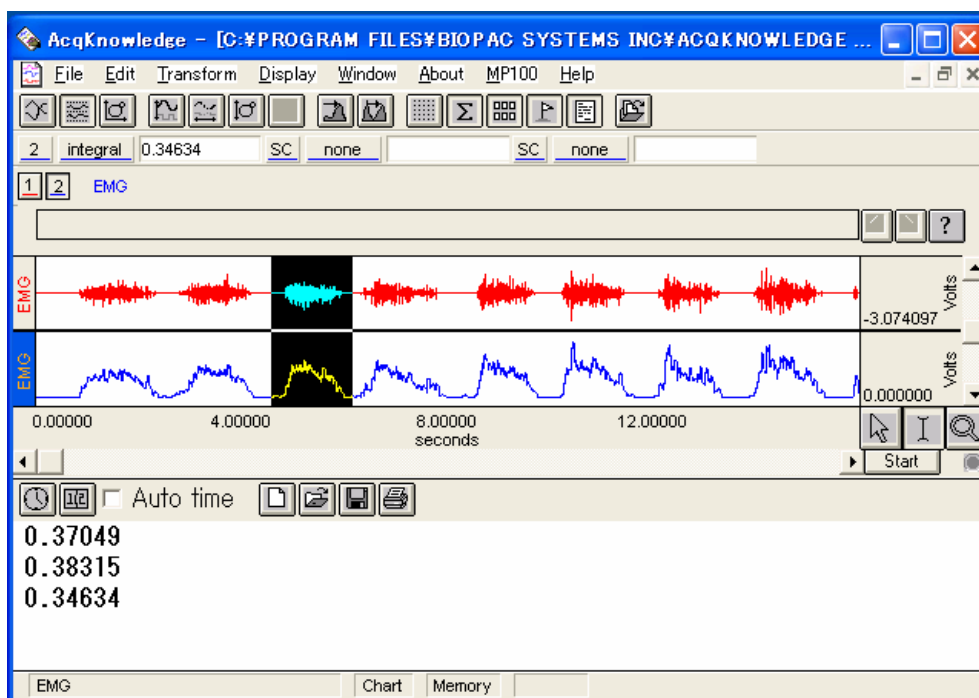
5、図のように第一群を選択してください。



6、メジャメントボックスの値を記録する為、キーボードの「ctrl+M」を押してください。



7、第2群、第3群でも、第1群と同じように手順5,6を行ってください。以下の図のようになるはずですが。



このデータでは第2群の活動量が最も多く、第3群が最も少なかったと判断されます。メジャメントボックスの「Integral」は0Vを基線として面積値を計算します。この手順は各群の面積値を、各群の筋活動量として判断し比較検討の材料といたします。